

# <白金標準、WPIC・PGM 需給報告に向けた修正安に注意・・・>



(出所：オアシス)

NY 金の高値追いを意識し、金利低下の要因を糧に NY 白金は 1465 ドルまで高値を試している。ただ 7 月 21 日の高値 1511.4 ドルを上回る事は出来ていない。しかし円建ての白金標準先物は、6 月 27 日の高値 6319 円を上回り、6342 円まで上昇している。特に金利低下や FRB（中央銀行）に対する独立性の懸念など、金融商品である金と違い景気商品である白金が買われ続ける根拠に乏しい状況であり、週末に発表された雇用統計では、FRB の二大責務である雇用の最大化が脅かされ、利下げに隠れた要因である景気悪化懸念が意識されて、株価の下落と合わせて NY 白金は伸びを欠いた値動きを見せている。そのため一時 6171 円まで戻りを見せたが、4059 円まで下落するなど金標準と違った値動きを見せている。

ただ今週は、10 日に WPIC 第 2 四半期 PGM 需給報告が控えており、前回 5 月の報告では 30 トンの供給不足を予想し、地上在庫は 67 トン減少し、需要の 3 ヶ月分まで縮小している事が示されていた。そのため更なる供給不足量が示されるのか、また地上在庫が 3 ヶ月分を下回るのか注目され、その報告まで高値からの修正の動きが起こってもおかしくなく、目先 6000 円を割り込む値動きに注意が必要と思われる。

## <テクニカル>

白金標準先物の週足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が切り下げながら、**シグナル**は上昇が止まり。また RCI では**短期**が上昇し、**長期**は高値を維持している。ただ週足が指数平滑移動平均線の抵抗を下回る可能性が高まっていると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,955,000 円(2025 年 9 月 8 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 81,840 円(2025 年 9 月 8 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>